

ポスト

「サムライ・平和」第17号への私信・所感御礼申し上げます

私信

● 拝啓 過日は「サムライ・平和」第十七号を御恵送いただき、有難うございました。御礼が遅れましたが、時間をかけて、ゆっくり拝読致しました。

その中でも、特に冒頭の「日本の言霊が世界を救う」という深い洞察に富む文明批評に、多くの啓発を受けました。

今後、日本人の思想的活躍が期待されます。

今回シユヴァイツァー博士を支えたヘレーネ夫人のことを初めて知り有益でした。

また「母性の復活」と「自然と共に」の特集は、私の日頃の関心と深くふれるものがありました。心から御礼申し上げます。

(大学名誉教授 O・I氏)

● 御誌「サムライ・平和」第17号のご恵送、感謝申し上げます。へコロナ危機の中でペースを乱さぬ御誌のご活動に敬服しております。

今号はまた内実のあるタイムリーな評論満載で読み応えがあり、この「コロナ時代」を耐え抜くための多くの示唆と勇気を与えて頂きました。

まず巻頭の山波言太郎先生の論文「日本の言霊が世界を救う」、十

年前の「東日本大震災」のあの時点で執筆された時事的論評なのにいま拝読しても鮮度を保ち冴えた時代認識に立っての世界危機への鋭いご指摘（まさにパンドラの箱を開いた「原罪」としての）と「日本の言霊」への導きに改めて「目からウロコ：」の思いを深く致しました。特集「自然と共に」のコーナーの中の先生の詩作品「深手」もグサリと胸に刺さりました。

「シュヴァイツァー博士とヘレーネ夫人」の完結編、加藤明氏のなみなみならぬシュヴァイツァー博士へのご傾倒と、その格調ある論の展開、また貴重な写真でこれまでの「シュヴァイツァー観」がさ

らに深まった思いです。

〈付記〉としての「日月神示と岡本天明」についても私自身の無知とコロナ禍の渦中にある私たちへの叱咤として受け止めております。

先日、隣町の高鍋美術館で開催中の「秋月鶴山と上杉鷹山展」を観てまいりました。山波言太郎先生の「清貧に生きよ」の項で取り上げておられる上杉鷹山公が高鍋藩の出であることを誇らしく思っております。

（詩人・著述家 M・K氏）

●『サムライ・平和』17号を御恵送いただきまして、心よりお礼を申しあげます。いつもありがとうございます。

「日本の言霊が世界を救う」深い感銘を受けております。特に上杉鷹山のこと、お書きくださいまして、嬉しく思いました（昔、米沢で鷹山の足跡を訪ねたことがありましたので）。また、「シュヴァイツァー博士とヘレーネ夫人(2)」〈付記：新型コロナウイルス感染症の蔓延に関して〉（加藤明氏）注目して読ませていただきました。ヴィーガンでいらっしゃる加藤さまから多くを学ばせていただいております（一人暮らしではないので、完

全植物食とまではいきませんが、
そうありたいと願っております。

熊谷さまの「自然界の愛をする
と生き方が転換する」を読ませて
いただき、私の心も透きとおった
風につつまれて、あたたかくなり
ました。清らかに……

また、執筆者の方々の真心、う
れしく感動しています。

(…)

二〇〇八年五月に、鎌倉へ桑原
啓善先生をお訪ねしたことを懐か
しく思い出しております。あのと
き桑原先生のおっしゃったことや、
いただいた御本がどんなに私を励
ましてくださったことか……今も、
感謝ばかりいたしております。

(詩人 M・Kさん)

●「サムライ・平和」第17号ご恵送
ありがとうございます。昨年12
月鎌倉文学館で特別展「川端康成」
を鑑賞後、『山の音』の舞台にもなっ
た古刹甘繩神社を参拝しました。

小野寺市朗氏の論考「森の中に
立つもの」は青森の三内丸山遺跡
を訪ねたり、東京国立博物館での
「縄文展」を鑑賞していたので、興
味深く拝読、大変参考になりました。

宮脇昭横浜国立大学名誉教授
は三本の植樹から森は生まれる
を提唱、国内外に一七〇〇カ所、
四〇〇〇万本の植林を指導してき
ました。氏は日本人には「鎮守の森」
をつくり続けてきた四〇〇〇年来

の素晴らしい遺伝子が残されてい
て、その遺伝子が国内外での森づ
くりの原動力となっているのでは
ないかと述べています。

(K賢治の会会長 T・K氏)

●このたびは『サムライ・平和』第
17号をご恵贈くださり、毎回のこ
とながら、どうもありがとうございます。

昨日、拝受し、山波先生の巻頭
論文と加藤明さんのシュヴァイ
ツァー博士ご夫妻物語の続き（&
付記・新型コロナウイルス感染症関連）を
拝読させていただきました。

Nさんにお礼を伝える前に目を通してしまつて、少々、反省しているところでもあります(苦笑)。

どちらも精神性の問題について述べられているのですが、結局は「善性と食」の関係がよりいっそう浮き彫りになるばかりですね。

私の机の周辺には、好きな人の写真を飾っているのですが、まあ、コピーしたものを貼っている、といった表現のほうが正確ですが(苦笑)、宮沢賢治といっしょに上杉鷹山も、こちらを向いています。

清貧の生活も、まずは食から始めると金銭的にも肉体的にも負担が減り、そして精神的にも気持ちの穏やかになり、実践・継続への

道が容易になることを、多くの人に知ってもらいたいですね。

先日、中村天風師の講演テープを10年ぶりくらいに再聴したのですが、長寿と自己鍛錬の根本は植物食にあることが強調されています(事務所では、天風師の写真もこちらを見つめています)。

金銭に固執しない人の食生活は共通していますね。

シュヴァイツァー博士は、植物の命まで大切にされていたようですが、せめて凡人である我々としては、動物の殺生を慎む生活へと移行していくことを目の前の目標としたいものです。

まだ、少ししか拝読していません

が、まずはご惠贈のお礼まで、あらためて申し上げます。ありがとうございますございました！そして、編集・営業に携わったみなさん、おつかれさまでした。

(出版社社長 S・H氏)

●「サムライ・平和」第17号を御惠贈下さいましたこと心より御礼申し上げます。

毎年3・11が近づくとも胸騒ぎを感じていました。特に去年の新型コロナウイルス感染の拡大が起こつてからは、エネルギー問題がかすんできまっていますように思えます。

エネルギーを原発に頼る静かな足音が一步一步進行を速めるのを危惧しております。今号の表紙タイトルの一つに

「3・11東日本大震災から10年パンドラの箱が開かれた地球危機の今日本の言霊が世界を救う」

心より同感しております。日本はおろか世界中の方々が気づき、自然回帰を考えるようになったと思います。

(エッセイスト A・Tさん)

●先日は「サムライ・平和」第17号をお送り下さり、ありがとうございます。どなたの文章から教えられるところが多々ありました。が、特に、賢治の文章に光を当てた、わかりやすい解説に感動しつつ拝読させて頂きました。本当に賢治さんは、神仏の慈愛の結晶である、自然の交歓を通してこそ、「すきとおったほんどうのたべもの」を食してこそ、人は人として成長できるのだ、と伝えておられた、と感じます。

(著述家 K・A氏)

●遅くなりましたが「サムライ・平和」17号をお贈り頂き恐縮しながらも早速読み進めさせてもらいました。ありがとうございます。いつもながら読み応えのある刷誌です。

また二碑のご建立、おめでとうございます。世界最初の「平和都市宣言」をされた鎌倉市に建立されたことにも大きな意味を思いますが。その碑文の「特集自然と共に」はどれもふさわしいエッセイです。

熊谷さんが取り上げた(堀内さん)賢治の「注文の多い料理店」序文は私も原点のように魅かれています。魂で実感できる生き方を模索し続けていきたいと思えます。

(T賢治の会会員 A・Sさん)

●本日サムライ・平和17号をご惠贈頂きました。いつも乍ら本当に申し訳ございません。

裏表紙にある碑の言葉が今一番大切なことですね。資源のないわが国で、生きていくために科学立国・技術立国で生きていくはずでした。経済優先・勝てば良い・儲ければ良いが普通になった。日本の行く末に暗いものが見え始めた。賢治さんが生きていたらどんな忠告かな。

(元県立高校教師 H・M氏)

●この度『サムライ・平和』第17号をお送り下さいまして、誠にありがとうございます。

3・11を信号塔として文明転換をはかるべきという山波先生のお言葉は、今なお重みを持って胸に迫ります。加藤明氏の、シュヴァイツァー博士夫妻の高潔な魂を明らかにした論文は感動的でした。

(宮沢賢治研究家 S・Kさん)

●本日、『サムライ・平和』17号をお送り頂きました。ありがとうございます。

早速熊谷さんの「自然界の愛をしると生き方が転換するく冰糖をほしくらいもたないでも」を拝読しました。

自然が人間に本当の生き方を、そして愛を教えてくれる。

その通りですね。

僕の永年の研究も自然が靈性を醸成する、というテーマでしたが、結局同じことを言っているのだと思います。

まあ、僕と宮沢賢治を比べてはいけません。

(大学名誉教授 N・T氏)

●素晴らしい心の糧の御本・「サムライ・平和」を送ってください、有難うございます。

早速、加藤明さまのコロナ問題の論文を読ませていただき、コロナの根因に現代人の肉食に傾斜する食生活の狂いがあることを学ばせていただき大変驚き、学ばせていただきました。

(言霊研究家 S・N氏)

●この厳しいコロナ禍ですが、如何お過ごしですか？

神奈川県は岩手県とは比べ物にならないくらい医療も逼迫して大変だと思います。

この度も、『サムライ・平和』をお送りくださりまして、ありがとうございます。大切に拝読いたします。

世界中がこのコロナ禍だからこそ、人類も賢治の教えに早く気づき、良道を歩んでほしいと願っております。

(映画監督 Y・S氏)

●サムライ平和を拝受いただきました。いつもお心遣いをいただき感謝いたします。

山波先生のメッセージが、この混沌とした世情の中、日増しに重みを増してきていると思います。さらに多くの方に届くよう願っています。

(病院院長 N・Y氏)

Samurai Peace 『サムライ・平和』の購読と原稿募集

〈購読の仕方〉

継続会員の方には、『サムライ・平和』第18号をお送りしました。

イ、引き続き購読を希望する方は、同封の振替用紙でこの第18号分の代金と送料（120円）をお送り下さい。この方は継続会員として、次号をお送りいたします。

ロ、引き続き購読を希望しない方は、以後は送本しません。この第18号の代金をお振込の際、振替用紙の通信欄の「次号より購読は不要」にチェック印をお付け下さい。

〈原稿募集〉

『サムライ・平和』第19号への投稿歓迎、寄稿もお願いします。

投稿

『サムライ・平和』継続会員は、誰でも投稿できます。会員以外の方でも、熱心な真剣なテーマをお持ちの方は投稿を受け付けます。

寄稿

本誌への激励援助のために、会員以外の方にご寄稿をお願いすることがあります。恐縮ながら、無償でお願いします。

投稿、寄稿のテーマ

- 3・11以後、日本の進むべき道を問う。世界の歩むべき道を問う。
- コロナ禍以後、世界の政治・経済・社会・文化・教育などの体制はこのままでよいのか。いかにあるべきか。
- 戦争について、また日本国憲法についての論究。
- 日本人の、世界にむける役割（使命）のようなものがあるか。あるとすればそれは何か。
- 脱原発か、原発維持か。 ● 沖縄についてもっと知ろう、さまざま論点からの論究を

右の外、以前の『ポルテ・チノ日本の心』のテーマも可。（念のため、付記しておきます）

- 義経はジンギス汗か？
- 自由主義、民主主義はこれでよいのか
- 日本精神と武士道の成立と特質
- 人生の意義を問う、宗教と科学の意味を問う

- 頼朝の武家政権成立とその意義
- 日本人、日本国の形成、及び日本民族の歴史的な役割りなど
- 人間とは何か、自由な見解を
- スピリチュアルとは何か、自由な論議、論究
- 芸術とは何か、芸術とはいかにあるべきか、真実の芸術とは何か

- 日本の政治家、官僚、財界人の姿勢はこれでよいのか
- 死とは何か、自由な論議を展開しよう
- 育児・教育について、いかにあるべきか。新しい発想はありませんか
- 天皇について、歴史的な見解と自由な論議

A類 右の研究テーマと関連した内容のもの（タイトル・表題は自由につけて下さい）

- 1、研究論文（原則として二二〇〇〇字以内）
- 2、エッセイ（随筆・紀行文・評論・小論など）（原則として四〇〇〇字以内）
- 3、「ポスト」（何でも自由な発言、感想など）（原則として八〇〇〇字以内）
- 4、詩、短篇小説（右の投稿・寄稿のテーマの主旨に沿ったもの）

（注）右は字数オーバーしていても、内容がよろしい場合は採用します。特に長文の論文の場合は予め編集室に御相談下さい。

B類 本誌（第18号）についての所感（字数は自由）

（お断り）掲載する原稿の採否・選考は編集室に御一任下さい。原稿の掲載は無償（本人負担なし、謝礼もなし）。寄稿の場合も原則として無償でお願いをさせていただきます。

原稿×切り……………二〇二二年十一月末日必着

原稿の送り先

〒248-0004 鎌倉市由比ガ浜4-4-11 『サムライ・平和』編集室 宛

メールアドレス genkou@yamamanami-zaidan.jp FAX 0467-23-8742（問い合わせ電話 0467-24-6564）

〈誌代にひつくと〉 第3号より 定価 本体1,000円＋税とさせていただきます。送料（164円）

● 同じ号をまとめて御注文のとき

2冊以上（から）は10%引き（送料は本人負担）、5冊以上（から）は20%引き（送料は本人負担）、10冊以上から送料は無料

（注）『ポルテ・チノ 日本的心』誌第2、3、4、5、6、7、8、9号は残部あり。『サムライ・平和』はバックナンバーあります。まとめ買いの割引も、同じ号をご購入の場合に適用します。

● 継続会員の方々へお願い 本誌普及のため、一冊でも二冊でも御知友等へ贈呈活動に御協力をお願いします。その時の誌代は右記の通りです。

● 送料は郵便振替でお願いします。

口座番号 00230-9-1109015 加入者名 一般財団法人 山波言太郎総合文化財団

●「死とは何か」を今号では巻頭論文とした。桑原は「人は死後も生き続け永遠に進歩向上するもの（神性）である」ことを人類が知れば、戦争のない新しい歴史が始まるとネオ・スピリチュアリズム普及に賭けた。以前は無視されることも多かったが、コロナ禍の今、世界全体の幸福を願う理性ある人の耳には届くのではないか。

宗片邦義先生には、平和を悲願した創作能「尹東柱」を発表していただいた。誠に光栄です。併せて南邦和先生には戦後50年目の玉稿「尹東柱覚書」を再掲載させていただいた。どちらも国際文化交流と融合への深い理解と実践のある両先生でなければ実現できない作品である。

今号では宮沢賢治関係の論文が4本揃った。いずれもユニークな、どこにもない賢治論である。特に、加藤明氏の力作は、ヴァイガンの生活と思索か

ら紡ぎ出された賢治の思想的神髄に迫るものである。

今回桂川宙峰氏が、近代日本霊性（精神）史のキーパーソン、新井奥邃を論じた。古代史からガンダムまで縦横無尽に往き来する若き研究者の今後の論究に期待する。

今号は、これまでも増して読者の方々の声がすばらしく響いてきた。書き手に届く読む方々の声はまるで光のエコーのようだ。ひたすら裏方（編集）は感動するのみ。有難うございます。

（熊谷）

●桑原啓善氏は、死者の声を、特攻基地の気象士官として送り出した友の心を、生涯忘れなかった。君たちの痛ましい死のおかげで、私たちは心から平和を求めました、愛で創ります、ありがとう。その時初めて「自分たちの死は無駄ではなかった」と死者は真に瞑目するといわれた。今号は、韓国の国民詩人の霊、自然界の精霊、そして殺され食べられ続ける動物たち、その命の痛みをまるで自分の痛みを感じる、

いたわりの愛で溢れている。これこそが私たちが心から望む「平和」の種子ではないか。（成内）

●巻頭論文（桑原氏）に「心霊研究とスピリチュアリズムは、顕幽二つの生存にかかわる現代の人生指導原理です」とある。人間の心が愛と奉仕の生き方に転換することは、人間、動物、世界全体の、幸福、平和への道しるべ、通らなくてはならない道なのだと思った。（山本）

Peace サムライ・平和 第18号

2021年8月15日 発行

発行・編集人 熊谷えり子
 編集スタッフ 成内一崇・山本久美子
 表紙デザイン 徳田義臣・コウ
 発行所 一般財団法人山波言太郎総合文化財団
 〒248-0014
 神奈川県鎌倉市由比ガ浜4-4-11
 電話 0467-24-6564 FAX 0467-23-8742
 印刷所 株式会社シナノパブリッシングプレス
 定価 本体1,000円+税